



平成20年10月6日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス
 代表者名 取締役社長 片山博臣
 (コード番号 8415 東証・大証第1部)
 問合せ先 常務取締役グループ企画部長
 米坂 享
 (TEL 073 - 426 - 7133)

**平成21年3月期第2四半期及び通期の連結業績予想の修正
 並びに有価証券評価損に関するお知らせ**

平成20年5月14日に発表しました当社の平成21年3月期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)及び通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

また、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成21年3月期第2四半期において減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じたので併せてお知らせいたします。

記

1. 株式会社紀陽ホールディングス連結業績予想の修正内容

(1) 平成21年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想(平成20年4月1日～平成20年9月30日)
 (単位:百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	43,300	7,800	6,000
今回修正予想 (B)	44,700	△ 700	1,800
増減額 (B) - (A)	1,400	△ 8,500	△ 4,200
増減率	3.2%	△ 109.0%	△ 70.0%
(ご参考) 前年同期実績	43,615	7,192	7,425

(2) 平成21年3月期通期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	86,800	16,700	13,400
今回修正予想 (B)	88,200	8,400	8,600
増減額 (B) - (A)	1,400	△ 8,300	△ 4,800
増減率	1.6%	△ 49.7%	△ 35.8%
(ご参考) 前年同期実績	89,558	10,617	13,359

(3) 業績予想の修正の理由

子会社である株式会社紀陽銀行において、国債等債券償却が発生することを主因とした、業績予想の修正です。詳細については、下記をご覧ください。

(4) 配当予想について

配当予想の変更はございません。

<ご参考（株式会社紀陽ホールディングス単体業績予想）>

平成21年3月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期累計期間	3,500	3,300	3,200	3,200
通期	3,600	3,100	3,100	3,100

※当社単体の業績予想につきましては、変更はございません。

<ご参考（株式会社紀陽銀行の単体業績）>

①平成21年3月期第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
当初予想 (A)	39,400	8,300	6,500
第2四半期累計期間修正予想(B)	40,800	100	2,500
差異 (B) - (A)	1,400	△ 8,200	△ 4,000
前年同期実績	40,177	7,713	4,565

②平成21年3月期通期

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
当初予想 (A)	78,600	17,400	13,800
通期修正予想 (B)	80,000	9,300	9,100
差異 (B) - (A)	1,400	△ 8,100	△ 4,700
前年同期実績	81,397	11,651	8,809

③要因

景況感の悪化による資金需要の低下に伴い、貸出金残高の伸びは鈍化しているものの、依然増加傾向を維持しており、資金利益は順調に推移しております。また、役務収支につきましては、上期中までは投資信託販売の減少を個人年金保険販売でカバーし、ほぼ計画どおりの推移となっておりますが、世界的な金融市場の混乱の影響を受け、下期につきましては販売環境が悪化するものと見込んでおります。

しかしながら、貸倒引当金戻入益が発生するなど、与信コストは当初見込みの範囲内で収まっており、経費もさらに削減が進むと見込んでおります。

このように本業部分の業績は概ね順調に推移しておりますが、リーマン・ブラザーズ・ホールディングス・インクの経営破綻による国債等債券償却の発生、また金融マーケットの混乱による株式相場などの下落を受け、有価証券関係損（売却損・償却）が発生することから、業績予想の修正を行いました。

2. 平成21年3月期第2四半期末の有価証券評価損の総額（当社グループ連結ベース）

(A) 平成21年3月期第2四半期末の有価証券評価損の総額	6,353百万円
(B) 平成20年3月期の連結純資産額 (A / B × 100)	146,049百万円 (4.3%)
(C) 平成20年3月期の連結経常利益額 (A / C × 100)	10,617百万円 (59.8%)
(D) 平成20年3月期の連結当期純利益額 (A / D × 100)	13,359百万円 (47.6%)

(参考) (1) 当社グループの第2四半期末は、9月30日であります。

(2) 「その他有価証券」で時価のあるもののうち、時価が取得原価に比べて50%以上下落しているものについては一律減損処理を行い、時価が取得原価に比べて30%以上50%未満下落しているものについては、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められない場合、減損処理を行っております。

(3) 評価損の総額のうち、株式等償却は283百万円、国債等債券償却は6,069百万円であります。なお、国債等債券償却は、先日発表いたしましたリーマン・ブラザーズ・ホールディングス・インクの発行する債券に関する損失であります。

以 上

(注) 本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。